The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	平成２７年度大阪大学ファカルティ・ディベロップメント研修実施要項
Author(s)	
Citation	大阪大学ファカルティ・ディベロップメント（ＦＤ）フォーラム報告書. 2016, 27, p. 4-7
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/56630
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

平成２７年度大阪大学ファカルティ・ディベロップメント（ＦＤ）フォーラム実施要項

（旧ＦＤ研修）

１．目　　的

本学教員に対し、ファカルティ・ディベロップメントの機会を提供し、教育指導・学習支援・学生支援能力の向上を図り、質の高い教育・学生支援活動の維持を目的とする。

２．対　象　者

平成２７年９月１日現在「教授、准教授、講師、助教」の職にある者（特任教員を含む）。

※受講目安として、少なくとも３年に１度受講のこと。ただし、教育学習支援センター（TLSC）の提供する全学 FD プログラムに参加した者は、本フォーラムに参加したこととみなす。

３．予　定　人　員

各日３００名（会場の都合により、予定人員を超過した場合は調整することがある。）

４．期日及び場所（①または②のいずれか希望する日に受講すること）

①平成２７年９月７日（月）　コンベンションセンター　会議室２他

②平成２７年９月８日（火）　豊中総合学館　４０１講義室他

５．日　　程

別紙のとおり

６．研　修　方　法

講義、グループ討議、ワークショップ等により行う。

なお、研修Ａ～Ｅはいずれか１つを選択し、受講すること。

７．講　　師

本学理事、教員及び学外講師

８．研修事務担当者

教育推進部教育企画課長　　田　口　耕　二（内線：吹田７０８１）

教育推進部教育企画課課長補佐　　橘　　弘　治（内線：吹田７０８２）

教育推進部教育企画課総務係長　　田　中　雅　士（内線：吹田３０７４）

※ファカルティ・ディベロップメント（ＦＤ）とは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称です。

平成27年度大阪大学ファカルティ・ディベロップメント(FD)フォーラム日程表

平成27年9月7日（月） 吹田地区：コンベンションセンター　　平成27年9月8日（火） 豊中地区：豊中総合学館

12:30～13:00 (30)	13:00～13:05 (5)	13:05～13:35 (30)	13：35～14：35 (60)	14:35～14:50 (15)	14：50～16：50 (120)		16:50～17:00 (10)
受付・ 資料配付	開会	情報提供 大阪大学の教育改革 トレンド	基調講演 教育改革最前線	休憩・移動	研修 A 授業時間外学習を促すシラバスの書き方		閉会
	開会挨拶 教育担当 理事	「教育改革の現状 と今後」 小林　傅司 教育担当理事	「反転授業の可能性」 森　朋子 准教授（関西大学） （15分の質疑応答時間を含む）		佐藤　浩章 准教授 （全学教育推進機構） 大山　牧子 特任助教 （教育学習支援センター）		閉会・ アンケート 記入
					研修 B 初めての反転授業入門実践編		
					森　朋子 准教授 （関西大学） 竹村　治雄 センター長 （教育学習支援センター） 黒田　嘉宏 准教授 （サイバーメディアセンター）		
					研修 C 授業でTA制度を活用するコツ		
					堀　一成 准教授 （全学教育推進機構） 家島　明彦 講師 （教育学習支援センター）		
					研修 D 授業時間外学習を促すITツールの紹介		
					岩居　弘樹 教授 （全学教育推進機構） 浦田　悠 特任講師 （教育学習支援センター） 根岸　千悠 特任研究員 （教育学習支援センター）		
					研修 E 学生指導に悩みを抱える教員のための事例検討会		
					武中　美佳子 講師〔9/7〕 （ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ支援ｾﾝﾀｰ） 望月　直人 特任准教授〔9/8〕 （ｷｬﾝﾊﾟｽﾗｲﾌ支援ｾﾝﾀｰ）	有川　友子 教授 （国際教育交流ｾﾝﾀｰ）	
					※研修 A～E の内1つを選択		

【研修テーマ概要】

基調講演：教育改革最前線 「反転授業の可能性」

20世紀後半にアメリカで生まれ、草の根で広まった反転授業は、説明中心の講義などをeラーニング化することで学習者に事前学習を促し、アクティブラーニングを対面で行う授業形態一般を指します。草の根で広まったその理由の1つは、通常のアクティブラーニングでは時間的に難しかった「知識と活動の連動」を実現化し、より深い「わかった」を学生に体験させる可能性を秘めていることです。
本講演では実際の事例を用いて、反転授業での学びの構造について紹介します。

研修A：授業時間外学習を促すシラバスの書き方

シラバスの記載は十分に学生の学習を促すものになっているでしょうか。本セミナーでは、学生の自学自習を促すシラバス作成方法を学びます。セミナー受講後には参加者の皆さんが「適切な授業目的・目標設定ができる」「授業時間学習を促す内発的・外発的動機づけができる」「目標に対応した評価方法を設定できる」ことをめざします。来年度の授業は、新しいシラバスを使ってスタートしましょう。参加者はご自身のシラバス（どれか1つ）を持参ください。

研修B：初めての反転授業入門実践編

反転授業の成功のカギは、「教える」と「学ぶ」をどのようにデザインしていくかにかかっています。本研修では反転授業の中でも、目標が違う2つのデザインに注目し、「教える」と「学ぶ」のバランスや対面におけるアクティブラーニングの方法について実際の授業デザインを検討していきます。また「教える」は動画化することが必要ですが、本学における教材作成の支援体制や講義映像収録配信システムなどの関連システムの導入状況、全教職員学生が使える動画教材作成ソフトウェアについても情報提供します。

研修C：授業でTA制度を活用するコツ

大阪大学には、能力や業務に応じて4段階に分かれたTA(Teaching Assistant)制度があります。特にSTAや、平成28年度からの運用を目指し、今年度試行中のTF（Teaching Fellow）は、博士後期課程所属の能力を生かし、科目の一部の教員役を果たしてもらうなど、他大学に見られない先進的なTA活用事例となっています。
しかし、その能力を発揮し、有効な教育サポートをしてもらうためには、教員側も受け入れる体制を整えなくてはなりません。この分科会では、過去のSTA研修で報告されたSTAと教員の協力体制事例を参考とし、教員がいかにうまくSTAやTFにサポートしてもらうか、議論します。

研修D：授業時間外学習を促すITツールの紹介

大学教育で行かせるITツールが目覚ましい発展を見せています。ITツールを活用することによって、教員の負荷を急激に増やすことなく、学生の授業時間外学習を促すことができます。本研修では、さまざまなITツールと活用事例を紹介したうえで、関心のあるツールを実際に使っていただけます。
【紹介予定ツール】講義を自動で収録し配信してくれる「EchoSystem」、学生と教員の双方向の授業づくりを可能にする「Beedanceウェブレスポンス」、学生が夢中になって学び始める「iPad＆各種アプリ」、手書きテストを自動分類してくれる「授業支援ボックス」など。

研修E：学生指導に悩みを抱える教員のための事例検討会

「修学困難な学生の理解に向けて」

平成28年度より、国立大学では障害のある学生への合理的配慮が法的に義務付けされます。みなさんが学生対応をされる際に、困難さを感じる学生の中には、障害（傾向）をもつ学生が含まれている可能性があります。特に、発達障害や精神障害の学生は、個性と障害の境界があいまいなため、対応に混乱する現状があります。講義では、事例を通したグループワークを用意し、学生にどのように接するのか、合理的配慮とはどのように考えていくのかなど、私たちにとって『喫緊の課題である』といった感覚を共有できる機会にしたいと思います。

「事例を通して考える留学生への対応とサポートについて」

留学生が関係する事例を検討することを通して、留学生を受け入れる立場の教員が留意すべき点、関係教職員等との連携協力やネットワークの重要性、その他、留学生への対応とサポートにおいて大事なポイントについて、一緒に考えていきます。

【ＦＤフォーラム全体報告】

大阪大学では、吹田キャンパス（9 月 7 日開催。参加者 107 名）と豊中キャンパス（9 月 8 日開催。参加者 98 名）において、教育指導能力の向上と質の高い教育活動の維持を目的として、全学 FD フォーラムを実施した。

9 年目を迎えた今年の FD フォーラムは、関西大学教育推進部の森朋子准教授を講師に招き、「反転授業の可能性」と題して講演が行われた。この講演では、反転授業の効果や課題などについて具体例を交えながらの解説や、新たな授業形態の取組みも紹介され、参加教員にとっては指導方法の幅を広げるためのきっかけとなる内容であった。

また、フォーラムの後半は、テーマ毎の分科会形式で研修を行った。それぞれの分科会には専門のスタッフが助言者として参画し、参加教員と活発な自由討論を進めることにより専門性を深められた様子であった。各分科会のテーマは次のとおり。A：授業時間外学習を促すシラバスの書き方、B：初めての反転授業入門実践編、C：授業でＴＡ制度を活用するコツ、D：授業時間外学習を促す IT ツールの紹介、E：学生指導に悩みを抱える教員のための事例討論会

なお、終了後のアンケートでは、参加者の満足度は非常に高く、今後のさらなる授業内容・方法の改善に繋がることが期待される。

【各分科会プログラム概要報告】

分科会Ａ『授業時間外学習を促すシラバスの書き方』

受 講 者：吹田地区 18 名　　豊中地区 14 名

講　　師：全学教育推進機構　佐藤浩章　准教授

配付資料：有　　CLE **映像配信**：有

概　　要：

最初にシラバスとは何か、その定義や役割についてお話いただいた後、「授業科目名・キーワード」「目的」「目標」それぞれの書き方について詳しくご説明いただいた。途中、関連した練習問題をいくつか出され、自ら考え、グループで話し合う時間も与えられた。最後には、紹介された様々な書き方を用いて自らのシラバスをブラッシュアップし、ペアで紹介し合った。

分科会Ｂ『初めての反転授業入門実践編』

受 講 者：吹田地区 32 名　　豊中地区 26 名

講　　師：関西大学教育推進部　森朋子　准教授

配付資料：有　　CLE **映像配信**：有

概　　要：

反転授業に最も重要な「教える」「学ぶ」をどのようにデザインするか、そのコツを二つの手法を紹介しながら説明いただいた。その後、反転授業に有効なオンライン教材の作成方法をご紹介いただいた。最後には、学んだ内容を振り返りながら、受講者自らが実際に授業デザインを行い、その場でわからない箇所を講師に確認できる時間が与えられた。

分科会Ｃ『授業でＴＡ制度を活用するコツ』

受 講 者：吹田地区 9 名　　豊中地区 9 名

講　　師：全学教育推進機構　堀一成　准教授

配付資料：有　　CLE **映像配信**：有

概　　要：

最初にワークシートを用いて、受講者のこれまでのＴＡ活用経験を振り返り、グループ内で発表を行った。その後、講師から大阪大学におけるＴＡ制度の変遷や各ＴＡ制度について説明いただき、その情報をもとにグループ内で「今後のＴＡ活用計画」「教員・院生双方の留意点」を議論し合い、その内容を発表した。

分科会Ｄ『授業時間外学習を促すＩＴツールの紹介』

受 講 者：吹田地区 25 名　　豊中地区 24 名

講　　師：全学教育推進機構　岩居弘樹　教授

配付資料：無　　CLE **映像配信**：有

概　　要：

授業時間外学習を促すことが可能な様々なＩＴツールおよび活用事例を紹介いただいた。その後、ＩＴツールが設置された各ブースで受講者が実際に使用し、疑問に感じたことや不明な点等を質問できる場を提供いただいた。参加者からは、「非常にためになった」「早速使用したい」等の多くの意見が寄せられた。

分科会Ｅ『学生指導に悩みを抱える教員のための事例検討会』

受 講 者：豊中地区 22 名　　吹田地区 23 名

（１）14：50 ～ 15：50

演　　題：修学困難な学生の理解に向けて

講　　師：キャンパスライフ支援センター　望月直人　特任准教授 ／ 武中美佳子　講師

配布資料：有　　CLE **映像配信**：無

（２）15：50 ～ 16：50

演　　題：留学生の事例を通して考える教員の対応のあり方

講　　師：国際教育交流センター長　有川友子　教授

配布資料：有　　CLE **映像配信**：無

概　　要：

望月先生、武中先生からは、修学困難な学生とは、どのような学生を指し、その原因や危険性を説明いただいた後、具体的な事例をもとに各グループで話し合った。その後、グループごとに意見を発表後、基本的な対応のコツを紹介された。

有川先生の講話では、留学生の実際の事例について、研修参加者を４～５名のグループに分け、問題の解決策についてのディスカッションの時間が設けられ、この問題を、より自分の事として考えることが出来たと思われる。

両分科会とも、メンタルケアにおける各種の豊富な実例、及びそれに対する具体的な対処法が紹介され、参加教員にとって貴重な機会となった。